

【会議録】

主 題 令和2年度 第2回つくばみらい市地域公共交通会議

- 日 時：令和2年10月30日（金） 午後1時30分～午後3時15分
- 場 所：つくばみらい市役所谷和原庁舎 2階 会議室 1, 2
- 出席委員：秋山義継会長，牧瀬成博委員，中村 浩委員（代理：酒井雄一氏），
武藤成一委員，田中正利委員，川上敬一委員，服部 透委員，
山野井周一委員，松本譲二委員（代理：飯島宣昭氏），
小川一成委員，海老原弘委員，下鳥百合子委員，大郷秀樹委員
中嶋克寿委員（代理：伊崎智明氏），石塚成美委員（代理：高野正敏氏），
小林寛明委員（代理：鈴木裕太氏），渡来真一委員（代理：大滝 渉氏），
伊藤和浩委員 以上18名
- 欠席委員：菊池龍夫副会長，鈴木裕一委員，富山和之委員，野村俊光委員，島崎邦雄委員
以上5名
- 事務局：都市建設部 石島部長
都市計画課 荒井課長，藤倉課長補佐，渋谷主査，岩上主事
㈱アルメックVPI 内山上席コンサルタント，和田コンサルタント
- 傍聴人：2名

●次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
 - 協議事項
 - (1) コミュニティバス バス停の新設について
 - 報告事項
 - (1) 令和2年4月～9月 利用実績について
 - (2) コミュニティバスお試し乗車 利用実績・利用者インタビュー調査結果について
 - (3) 筑波学園病院 病院バス実証運行 アンケート調査結果について
 - その他
 - (1) 地域交通事業者への支援について
 - (2) 電気バスデザインについて
 - (3) 病院バスについて
- 6 閉会

●議事要旨

議題

協議事項

- (1) コミュニティバス バス停の新設について
 - ・令和3年度開設予定の「みらい平市民センター」へのバス停設置について説明し，承認された。

報告事項

- (1) 令和2年4月～9月 利用実績について
 - ・令和2年4月～9月におけるコミュニティバス・デマンド乗合タクシー・筑波学園病院 病院バス実証運行の利用実績について報告した。
- (2) コミュニティバス お試し乗車 利用者実績・利用者インタビュー調査結果について
 - ・9月14日～18日，10月4日～10日にかけて行ったコミュニティバスお試し乗車の利用実績，および併せて実施した利用者インタビュー調査の結果について報告した。

- (3) 筑波学園病院 病院バス 実証運行 アンケート調査結果について
- ・ 8月31日～9月4日にかけて実施した筑波学園病院 病院バスの乗客アンケート結果について報告した。

その他

- (1) 地域交通事業者への支援について
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少している地域交通事業者に対する支援金の交付，および公共交通機関の利用促進を図るチラシの配布について報告した。
- (2) 電気バス車両デザインについて
- ・ 令和3年度導入予定の電気バスの車両デザインについて報告した。
- (3) 病院バスについて
- ・ 筑波学園病院への病院バスの今後の方向性，およびJAとりで総合医療センターへの病院バスについて報告した。

●議事録

1 開会（午後1時30分）

2 委嘱状・任命書交付

- ・ 役員変更により，新しく委員になられた方に委嘱状を交付した。

3 会長あいさつ

4 議題

協議事項

(1) コミュニティバス バス停新設について

- ・ 令和3年度設置予定の「みらい平市民センター」へのバス停設置について説明し，承認された。

【質疑等】

委員意見：設置予定日が7月1日ということであるが，これはみらい平市民センターの開設日に合わせたということか。

事務局：みらい平市民センターについては，令和3年度第一四半期のオープンを目指して現在準備中である。バス停の設置はオープン日より前に設置したいということである。

委員意見：このバス停を設置した場合，どのルートが関係してくるのか。

事務局：板橋地区を運行する板橋・みらい平ルート，地区間を結ぶ南ルート，西ルート，東ルートの4つが該当となる。なお，みらい平通勤ライナーもルート上を運行しているものの，早朝のみの運行であるため新設バス停への停車は予定していない。

報告事項

(1) 令和2年4月～9月 利用実績について

- ・ 令和2年4月～9月におけるコミュニティバス，デマンド乗合タクシー，筑波学園病院 病院バス実証運行の利用実績について報告をした。

【質疑等】

委員意見：コミュニティバス再編当初，どこのルートが一番利用頻度が高くなる等の予測があったと思う。再編して半年ほどではあるが，私は通勤ライナーの利用が一番高くなると予想していたが実際は全く逆の結果となった。また，コロナの影響もあると思うが，小絹ルートも駅が近いためもっと利用があっただけではない。こういった当初の見立てと違う部分を整理し，改善に生かしてほしい。

会長：随時データを整理していく必要がある。ただルートを増やせばいいという訳ではなく，利用者の声，実情に合わせて変えていく必要がある。

委員意見：コミュニティバスについてだが，4，5月はコロナの影響で前年度比マイナス

であったが、6月からは増加に転じていていい傾向にあると思う。引き続き検証は必要であるが、便数拡大・PRの効果が出ていると思う。これは細かいことになってしまうが、資料の中に「増便に対して利用者数の増加が比例せず」とあるが、経験則上、便数の増加に対して利用者数の増加は比例しない。「増便に伴わず」等の表現に変えた方がよい。

次に病院バスについてだが、みらい平駅の利用が最も多いが、これは交通機関を乗り継いでみらい平地区にきた人ではなく、みらい平地区に住む住民の方であるという理解でよろしいか。

事務局：みらい平駅を利用している人の属性については、後述する病院バスを利用した方へ行ったアンケート調査の結果、一番多かったのはみらい平地区に住んでいる方。次に4月よりみらい平駅を交通結節点として運行本数を増やしたコミュニティバスを利用して乗り継いで病院バスを利用する方が多かった。行きと帰りでみらい平駅の利用者数に差がでているのは、診察、薬局等の終了時刻に間に合わないといった要因がある。帰りの交通手段としては、路線バスを利用しみらい平駅へ行くという利用者の方もいらっしやった。

委員意見：今のお話を伺うと、利用者の増加を図るには時間帯の改善が必要になってくる。ただ、帰りの手段として路線バスを使っている方がいるとあったが、一部路線バスと競合してしまっている部分がある。いずれにせよ、その点に関して何らかの方策が必要である。

委員意見：コミュニティバス、病院バスともかなり手厚いと思う。これを充実させればさせるほど路線バスやタクシー事業者の業績を圧迫してしまう。もっと充実させてほしいという声もあれば、他の分野に予算を回してほしいという声もある。費用対効果も考えなくてはいけないのではないか。どこまで要望に応えるかの判断が非常に難しい。

会長：住民の要望に応じて際限なく充実させていってしまうと、本来使っていただきたい交通機関、路線バスやタクシー等が衰退していってしまう。また、無償というものは負担する必要のない人も負担してしまうことになってしまう。財源は税金であり、受益者負担という観点も重要である。便数や費用対効果ももう一度検討しなければいけない。

(2) コミュニティバス お試し乗車 利用実績・利用者インタビュー調査結果について

- ・9月14日～18日、10月4日～10日にかけて行ったコミュニティバスお試し乗車の利用実績、および併せて実施した利用者インタビュー調査の結果について報告した。

【質疑等】

なし

(3) 筑波学園病院 病院バス実証運行 アンケート調査結果について

- ・8月31日～9月4日にかけて実施した筑波学園病院 病院バスの乗客アンケート結果について報告した。

【質疑等】

なし

その他

(1) 地域交通事業者への支援について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少している地域交通事業者に対する支援金の交付、および公共交通機関の利用促進を図るチラシの配布について報告した。

【質疑等】

なし

(2) 電気バス車両デザインについて

- ・令和3年度導入予定の電気バスの車両デザインについて報告した。

【質疑等】

なし

(3) 病院バスについて

- ・筑波学園病院への病院バスの今後の方向性、およびJAとりで総合医療センターへの病院バスについて報告した。

【質疑等】

委員意見：私もJAとりで総合医療センターへ通院しているが、例えば13時35分谷井田中央発の取手駅西口駅行きに乗ると、14時00分取手駅西口発のJAとりで行きへの乗り換えがギリギリ間に合わない。この時間がずれると非常に乗り換えがスムーズにいく。

委員意見：資料にあるようにJAとりで総合医療センターへはかなりの便数の路線バスが出ている。これだけある路線バスを生かさなくてはいけない。いくらルート、時間帯をずらそうと利用者は安い方に時間を合わせるのが普通である。そうなってくると今ある路線バスの利用者が減り、本数が減ってしまう。住民要望は限りがない。先程の話にもあったとおり路線バスの時間をずらすという話の方が重要ではないだろうか。最終的には市民、行政、議会の判断となるが、住民要望に限りなく応えていたら予算が足りない。どこかで線を引かなければいけない。

会 長：委員からあったとおり、路線バスは利用者が減少すると減便、もっと利用者が減少すれば撤退してしまう。これは路線バスをマーケットから退出させてしまうことになり、危険極まりない。様々な形の交通手段があってもよいが、棲み分けをしなければいけない。つくばみらい市の交通体系をどのように作り、そして他の市町村との関係をどのように整理し接続していくかを地域全体でみていかなければならない。

委員意見：話が戻ってしまうが、コミュニティバスのお試し乗車についてお伺いしたい。無料キャンペーンを行った結果乗客数が3,4割増えたのは分かったが、単にPRとして行ったのか、この結果をどのように生かしていくのかお伺いしたい。

事務局：実施後1週間のデータは出ているが、それ以降、どのようなルートが、どのくらい人数が増えたのか、今後更に継続して分析をしていきたい。その分析結果によって、利用者数が一定程度増加しているルートに関しては需要の創出ができた、需要があるということなので次回再編時の判断材料として活用していきたいと考えている。また、お試し乗車はPR、利用促進の目的もある。実際初めて乗ったという方もいらっやあって、「乗車方法がよく分からなかった。」というお声も頂いた。市民の方に利用の仕方をどのように周知していけるかを検討していきたいと考えている。

委員意見：先程の意見にあったとおり、これだけ路線バスが走っているのだからこれを生かすのがいいと思う。路線バスとコミュニティバスをうまく結節させるとか、乗り継ぎの利便性を向上させるとか。例えば乗り継ぎ場所の近くにコンビニなどがあれば、協力をお願いして、雨の日や寒い日にイトインコーナーで待っていただくとか。それぞれの役割があるのではないかと思う。

会 長：それぞれの交通手段の役割があっても棲み分けをしなければいけない。地区内だけでなく、地区外とも連携して進めていく必要がある。この会議でも様々な意見をいただきながらやっていきたいと思う。

委員意見：先程の病院バスのアンケートの中に、知っているがバス停まで歩くのが大変という意見や、親戚に送迎をお願いしているという回答があった。バス停の近くに住んでいる方ばかりではないし、今後、高齢化が進み足を必要する人は増えてくる。運転免許証の返納も推奨している。こういった人たちを救う視点も非常に大事なのではないかと思う。

会長：交通弱者にも様々な種類がある。運転免許証は持っているが車がない方、今後運転免許証を返納し将来的に交通弱者になる方。あるいはバスの乗り降りなどにも苦勞する方。そのあたりの対策も今後、様々な調査をしながら対応していく必要があるのではないかと思います。

5 閉会（午後3時45分）

●配布資料

- 【資料1】 コミュニティバス バス停の新設について
- 【資料2】 令和2年4月～9月 利用実績について
- 【資料3】 コミュニティバス お試し乗車 利用者実績・利用者インタビュー調査結果について
- 【資料4】 筑波学園病院 病院バス実証運行 アンケート調査結果について
- 【資料5】 地域交通事業者への支援について
- 【資料6】 電気バスデザインについて
- 【資料7】 病院バスについて